

## 令和3年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【2年目】

P T A名	静岡県立静岡北特別支援学校 南の丘分校 P T A
学 校 名	静岡県立静岡北特別支援学校 南の丘分校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input type="checkbox"/> 小学部 <input type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	53人

### 1. 使用状況

寄贈物品名	電子式ジグザクミシン
使用学年及び人数	高2 18人
使用頻度	1年間で複数回使用
使用状況	家庭科の授業で、裁縫の知識や技能を身に付けることを目標に、寄贈していただいたミシンを使用して巾着袋を製作しました。
物品の使用による変化や効果	寄贈していただく前は、非常に古いミシンを使用しており、使用中に糸が絡んだり止まったりして、思うように製作が進まないことが多かったです。寄贈していただいたことにより、ミシンの不調で作業を中止することなく、続けて取り組めるようになりました。授業をスムーズに進めることができるようになり、生徒の意欲や学習効果も高まったと感じています。
今後の活用の見通しや課題	本校では、高等部2年生で裁縫の授業を予定しており、今後も継続的に使用していきたいと考えています。
その他希望や所感など	新しいミシンになったことで、これまで製作が難しかった教材にも取り組めるようになり、学習の幅が広がったと感じています。また、ミシンの調子が良いと活動もスムーズであるため、生徒のモチベーションを保って授業を進めることができ、生徒にとっても教員にとっても良かったと思います。寄贈していただき感謝しています。

## 2. 活用の様子



ミシンを使用して巾着袋を製作しました。  
1人1台新しいミシンを使用でき、効率的に作業を進めることができました。  
ミシンの調子が良いため、裁縫が苦手な生徒も以前より抵抗感なく活動に取り組めていました。



生徒同士で教え合う姿もありました。  
針を刺す位置や布の引っ張り方、出来栄などお互いに確認し合うことで、より良い巾着袋になるように努力していました。